

2016年度 東海地区協議会図書館実務担当者研修会 記録

日 程：2016年9月1日（木）～2日（金）

場 所：名古屋女子大学 南8号館

参加者：28大学63名

愛知大学、愛知医科大学、愛知学院大学、愛知学泉大学、愛知工業大学、愛知産業大学・短期大学、愛知淑徳大学、愛知文教大学、朝日大学、桜花学園大学、岐阜医療科学大学、岐阜聖徳学園大学、金城学院大学、皇學館大学、椛山女学園大学、中部大学、東海学園大学、同朋大学、名古屋外国語大学・名古屋学芸大学、名古屋学院大学、名古屋経済大学、名古屋芸術大学、名古屋女子大学、名古屋造形大学、南山大学、日本福祉大学、人間環境大学、名城大学

■スケジュール

【第1日目】10時30分～17時00分

1. 会場校挨拶
2. 【グループワーキング】
3. 図書館見学（希望者）
4. 【グループワーキング】

【第2日目】10時00分～17時00分

1. 【グループワーキング】
2. 【全体会】
グループ成果発表
研修会総括 各講師



■全体会 グループ成果発表

(1) ワーキング A



- 1) テーマ：ポスター作成を通して発信力を強化する
- 2) 発表者：愛知学院大学 釈 誠至
名古屋学院大学 水野 真梨子
- 3) 内 容：

事前・事後課題の作成、デザインの専門家による講義や実習、ワーキングを通じて、効果的なポスター作成技法を学び、図書館の発信力向上を図ることを目的に研修が行われた。

1日目は事前課題で提出したポスター（PowerPointで作成）の講評があり、講師から改善点などについて指導を受けた。続いて図書館見学を行い、実習で作成するポスターの掲示場所を確認した後、講義によりポスター作成に必要な基礎的な知識・スキル（①ポスターの作り方、②デザインの基礎、③写真、④色、⑤文字）について学んだ。実習ではテーマをガイドンスや募集案内などに限定して、ポスターを作成した。

2日目も引き続き実習を行い中間発表として作成のポイント等を各自発表し、個別講評及び参加者間の意見交換をもとにブラッシュアップを図り、ポスターを完成させた。

全体会では、講義を受けて作成時に意識したポイントや作成の過程等について、ワーキングによりグループで話し合った内容について発表

を行った。また、参加者全員の事前課題と実習時に作成したポスターを掲示し、講師による講評を受けた。

研修後の事後課題は、今回の研修会の成果をふまえたポスターを作成することとし、作成したポスターの紹介、工夫した点、利用者の反応等を講師・参加者間で共有し、研修の振り返りを行った。

(2) ワーキング B



1) テーマ：学生支援のための情報リテラシー教育実習

2) 発表者：愛知学院大学 柴田 弘輝
朝日大学 安藤 美紀
相山女学園大学 求野 弥生
名城大学 大野 祥平
名城大学 水谷 伸司

3) 内容：

ワーキング B では20名が5つのグループに分かれて個人ワーキングに取り組んだ。学修支援・情報リテラシー・アクティブラーニングをキーワードとして、1日目は情報リテラシー教育についての講義と4つのワークを、2日目は3つのワークに取り組んだ。図書館サービスの全てが学修支援であり、情報リテラシー教育とは学び方を学ぶ教育である。そして、アクティブラーニングとは認知の外化である。2日間の6つのワークを通して情報リテラシー教育の体系化と図書館講習会の指導案の作成に取り組んだ。成果発表として、各グループから1名ずつ情報リテラシー教育の体系化、または図書館講習会の指導案を発表した。

(3) ワーキング C



1) テーマ：図書館を知る<図書館員としての基礎力>

2) 発表者：東海学園大学 諸留 久美子
名古屋芸術大学 太田 成夫
名古屋経済大学 建石 純那
人間環境大学 林 智子

3) 内容：

大学図書館員マインド、目録、電子リソース、統計活用と、図書館員としての基礎力について4名の講師から講義を受けるとともに、講師を交えた意見交換・情報共有を行い、図書館の業務や概観について理解を深めた。また大学図書館員マインドや統計活用をテーマにグループディスカッションを行い、大学図書館員として必要な基礎力やマインドについて検討した。成果発表として、2日間に渡り話し合った大学図書館員マインドについて、各グループの代表者1名ずつが発表を行った。日常では深く考えることが少ない「図書館員とは何か」について考える良い機会となった。

■全体講評

(1) ワーキング A

[遠藤 潤一氏]

事前課題で作成したポスターと今回の研修で作成したポスターを比較すると、デザインが大きく改善されました。わずか2日間の研修の間に、参加者の皆さんが情報デザインの基本をしっかりと理解し実践した素晴らしい結果です。この研修では「デザインはセンスではなく知識」であることをお話ししました。知識があると日常生活においてポスターやチラシを見る精度も向上しますので、さらなるレベルアップを目指して下さい。また、ぜひ所属されてい

る場の周辺にも広めていくことを期待します。

(2) ワーキング B

[野末 俊比古氏]

今回の研修プログラムは、かなりハードな内容でした。はじめこそゆったり進めましたが、徐々にスピードアップを必要としていきました。にもかかわらず、いずれの成果物も充実したものとなったのは、参加者の皆さんが普段から情報リテラシー教育に強い関心を持って臨んでこられたからだと思います。

他参加者（他館）と刺激しあいながら自身（自館）の課題に取り組んでいくという「集合形式」の意図・意義が発揮された、充実した研修となったと思います。

(3) ワーキング C

[安東 正玄氏]

私の参加した C グループの講師陣が元大学図書館員で公共図書館の役員、元大学図書館員で資料室勤務、元大学図書館員で教員と多様なメンバーでとても贅沢な時間を過ごさせていただきました。

参加された東海地区の私立大学図書館員の皆さんも思いのほか、問題認識のレベルが高かったのも、私の話では刺激が少なかつたかもしれません。

ただ、私の話の中で、いくつか聞きなれない単語や言葉などもあったかと思しますので、図書館員らしく「調べて」今後の業務に活かしてもらえればと思います。

なお、私を含め全ての講師が「職場以外とのつながり・視点」を重要視していたかと思します。特に、世の中には勤務時間だけでなく自分の時間を使い他の人々とつながっている集団もあり、その人たちのより積極的な考えや取組みなどの刺激を受ける事をお勧めします。

自分の組織では実現不可能なことでも、他の組織（他大学など含む）では実現できるかもしれませんし、その行いがいつかは自分の組織にフィードバックされる可能性も高い事を考えれば、「未来を信じ、未来を語る」環境を自分の周り（職場とは限らない）に作れるかどうか重要です。私もそのように考えて実践していますので、今後「こんなところで？」皆さんにお会いできる事を期待しています。

[石川 敬史氏]

研修会に登壇させていただき、何よりも東海地区における大学図書館員の皆様の熱い思いが連環していることに気がついた。Cグループでは「図書館員の基礎力」と大きなテーマであったが、登壇された皆様が「現場」のご経験と知恵を「小文字」で語り、同時に、参加者と登壇者により、ともに学びあう場が形成された。もちろん、学びあった後は、「現場」で広げ、伝え、どのように行動し、どのように実践するかが鍵であろう。まさに本研修会は、図書館の事象を単に論評するのではなく、持続的で豊かなネットワークの形成と、意志を伴った図書館実践を育む「教室」であった。

[坂口 雅樹氏]

講演の冒頭で「大学図書館員マインド」という言葉を聞いて連想する言葉は何かという問いかけをした。参加者は思いついた言葉をポストイットに記してホワイトボードに貼った。そして講師が「コツコツからワクワクへ」の話をしてから、最後にもう一度同じ問いかけをした。結果は全員が講師の話の前後で異なる言葉を書いた。それは図書館員の心をもう一度見つめ直して自分の言葉で自分の立ち位置を決めた瞬間だった。感謝したい。

[鈴木 卓美氏]

Cグループは、4人の講師から短い時間に多くの情報が提供され、消化不良の部分もあったのではないかと思います。しかし、得られた情報及び知見は業務にすぐ役立つものではなく、徐々に業務に役立って来るものです。時々資料を見るなどして復習することにより身につけていきます。

また、グループワークに参加して感じたことは、参加者全員が図書館マインドに溢れた方々ばかりで、こちらも大変勉強になりました。

記録：澤木 ひとみ

(名古屋女子大学学術情報センター)